

枚方市 次期総合計画 基本構想（試案）

目次

次期総合計画の策定に向けて

- 計画策定の考え方
- 現在の枚方市と枚方市を取り巻く情勢の変化
- まちづくりの方向性

基本構想

- めざすまちの姿
- まちづくりの基本目標
- まちづくりを進める基盤づくり
- 総合計画の実現主体

計画の構成と期間

文中にある * 付の語句は、巻末の用語集に解説があります

次期総合計画の 策定に向けて

計画策定の考え方

現在の枚方市と枚方市を取り巻く情勢の変化

まちづくりの方向性

計画策定の考え方

総合計画策定の考え方を示しています。

☒ 今と未来を見据えたまちづくりの取り組みを示す計画

目の前にある課題への対応と、未来のあるべき姿を見据えて今実施すべき取り組みの両方の視点から、まちづくりの方向性を示すことのできる計画を目指します。



☒ 誰にとってもわかりやすく身近な計画

様々な背景を持ち置かれた立場も異なる主体が、枚方市を思う気持ちのもと、まちづくりを進めています。目標や取り組み内容を共有し、強みを出し合いながら協力することができる「まちづくりの指針」となるよう、誰にとってもわかりやすい、身近な計画を目指します。

☒ 変化に対応できる適応型のしなやかな計画

未来を見通すことが難しい時代だからこそ、今後の社会情勢や市民ニーズの変化に対応できる柔軟性を持ち、状況に応じて施策や取り組みをアップデートできる計画を目指します。

現在の枚方市と 枚方市を取り巻く情勢の変化

枚方市の現況と未来予測などをもとに、
これからの「まちづくりの方向性」を考えました。

まちづくりの方向性

次ページ以降に今後のまちづくりの方向性を示しています。
参考データの詳細については、右記報告書等をご参照ください。

▶「各種アンケート調査報告書」

多様な主体や年代を対象に、生活満足度や市の施策、今後のまちの在り方に関するアンケートを実施しました。

<https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000054202.html>



▶「令和8年度枚方市現況調査報告書」

枚方市の現状や各分野を取り巻く社会動向を分析するとともに、類似特性を持つ中核市との比較を行いました。

<https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000054204.html>



▶「令和8年度枚方市人口推計調査報告書」

令和8年(2026年)から令和38年(2056年)までの5年ごとの人口動態を推計し、目指すべき将来の方向性と人口の将来展望を提示しました。

<https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000054190.html>



▶「枚方市の未来予測」

将来人口推計に基づき、人口構造の変化に伴う各分野の行政需要や将来的な課題を分析しました。

<https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000054207.html>





市民の防災意識をさらに高めるとともに、都市基盤の整備や的確な情報発信を進め、地域や事業者などとの連携により、災害に強く安全に暮らせるまちをめざします

いつ発生するかわからない自然災害に備えるため、公共インフラの更新をはじめとする災害に強い都市基盤の整備や的確な防災情報の発信を進めます。また、災害から命と暮らしを守るためには「公助」だけでなく、市民一人ひとりの「自助」や地域・事業者による「共助」の取り組みが不可欠であることから、市民や事業者の防災意識をさらに高めるとともに、地域や事業者などが主体的に連携し、共に支え合う防災の取り組みを一層進めます。

市民等の声

- 市民アンケートでは、災害時に市民が自ら判断し行動できるようにするための啓発や情報発信を重視する意見があり、若者アンケートでも同様の声がある。
- 事業者アンケートでは、自治会・事業者・行政の連携による体制づくりの意見がある。
- NPO*アンケートでは、ハザードマップ*の利活用についての講習会・啓発の取り組みが必要との意見がある。

参考データ

－災害は「いつか」ではなく「いつでも」起こるもの－

枚方市は、平成30年（2018年）6月の大阪府北部地震や同年9月の台風第21号などの災害を経験してきた。さらに将来においても、今後30年以内に60～90%の確率で発生が予想される南海トラフ巨大地震に加え、生駒断層帯地震をはじめとする直下型地震への備えも重要である。行政による災害への備えとして、物資の備蓄やインフラの整備を進めることに加え、災害時に命や財産を守るためには、市民一人ひとりの日頃の備えと、地域や事業者同士の助け合いが必要である。

地震の被害想定

出典：大阪府「平成25・26年度南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会公表の地震被害想定結果」「平成19年大阪府自然災害総合防災対策検討（地震被害想定）報告書公表」をもとに作成

南海トラフ巨大地震 生駒断層帯地震

※最大震度6弱での
枚方市における被害想定

※最大震度7での
枚方市における被害想定

死者数 約 50人 約 370人

負傷者数 約 1,200人 約 5,100人

最大避難者数 約 34,100人 約 46,800人



組織化、巧妙化する犯罪にも対応できるよう、事業者や関係機関、地域が連携し、社会全体で犯罪のない安心なまちをめざします

犯罪手口が組織化・巧妙化する中で、高齢者等をターゲットにした詐欺などの犯罪が増加しているほか、子どもや若者が加害者や被害者として巻き込まれるケースも起きています。こうした状況に的確に対応するため、事業者や警察等の関係機関との連携を一層深めるとともに、地域における見守りの強化や先進的なデジタル技術の活用などを進め、社会全体で安心なまちづくりを推進します。

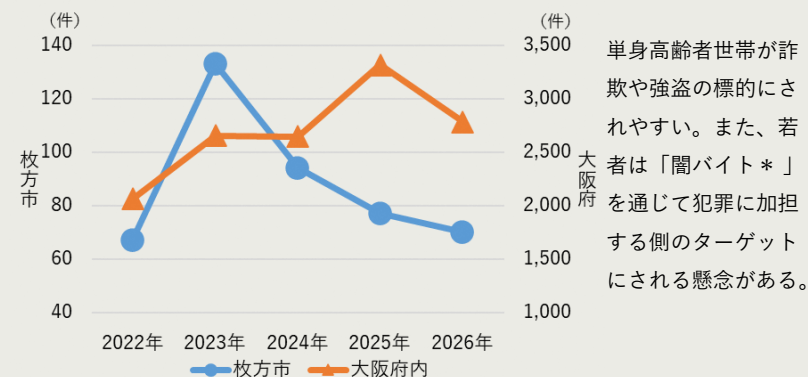
市民等の声

- 市民アンケートでは、防犯パトロールや地域の見守り強化等の人のつながりによる対応を求める意見がある。
- 事業者アンケートでは、行政だけでなく市民や企業、地域団体が協力しながら、見守り体制の充実を進めてほしいとの意見がある。
- 市民ワークショップ*では、治安の問題や校区コミュニティの高齢化を懸念する声や誰もが安心できる防犯のために共創が必要という声が上がっている。

参考データ

特殊詐欺*認知件数

出典:大阪府警察「市町村・行政区別特殊詐欺*発生状況」をもとに作成



高齢化率の未来予測

総人口に占める65歳以上人口の割合

出典:枚方市「枚方市の未来予測」

令和8年(2026年)

29.3%

令和38年(2056年)

▶ 44.3%

高齢化率は今後30年間上昇し続ける見込み。



道路交通網や歩行空間の計画的な整備を進めるとともに、時代に即した新しい交通環境を整えることで、誰もが安全で快適に移動できるまちをめざします

道路交通網の計画的な整備や安全な歩行者空間の確保を進めるとともに、人口減少や公共交通の担い手不足が進む中においても、地域と連携して、移動手段の確保を図ります。さらに、環境負荷の低減や健康増進につながる徒歩や自転車の利用促進、人を中心とした都市空間の形成、次世代交通技術の導入といった多様な視点を持ちながら、これからの時代に即した新しい交通環境の構築を推進します。

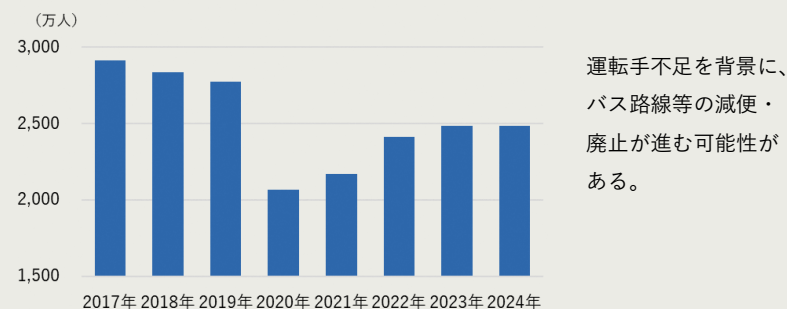
市民等の声

- 市民アンケートでは、安全な道路空間の確保、渋滞緩和、バスの利便性向上などを進め安全で快適に移動できるまちを望む意見がある。
- 子どもアンケートや市民ワークショップ*では、空飛ぶクルマやドローンなどの次世代交通技術の活用を期待する意見がある。

参考データ

主要駅のバス乗降客数

出典：枚方市「枚方市統計書」をもとに作成



未来を拓く次世代モビリティ

かつて夢物語だった「空飛ぶクルマ」や「自動運転での移動」は、現在、実用化に向けた取り組みが進められている。大阪・関西万博では、空飛ぶクルマのデモフライトや自動運転・EVバスの運行など、次世代エアモビリティの社会実装に向けた取り組みが行われた。

こうした次世代交通技術は、地域の移動における課題を解決する新たな選択肢として期待されている。

公共交通徒歩圏内人口の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」

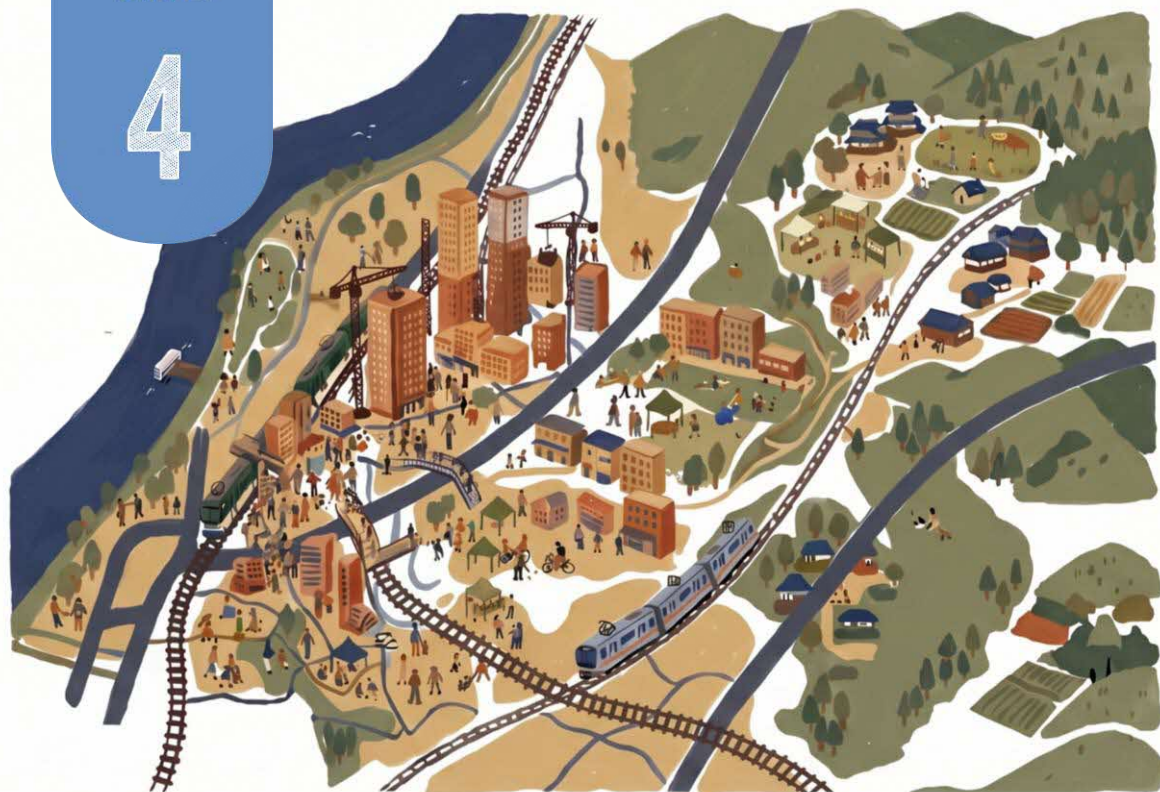
令和7年(2025年)

34.0 万人

令和37年(2055年)

▶ 25.8 万人

公共交通徒歩圏内人口は、今後30年間で約8万人減少する。これによる公共交通利用者の減少は、バス路線等の縮小につながる懸念がある。



公共交通ネットワークを生かした都市機能の集約化を図りながら、周辺環境とも調和した、将来にわたって賑わいと安らぎが共存する誰もが便利で暮らしやすいまちをめざします

人口減少社会の中においても、都市の活力を維持するため、本市の強みである交通アクセスの良さや便利な生活基盤を生かした都市機能と居住の集約化を進めます。さらに、豊かな自然をはじめとする周辺環境との調和を図ることで、都市の「賑わい」と自然がもたらす「安らぎ」が共存する、バランスの取れたまちの環境を、将来にわたって維持・向上させていきます。

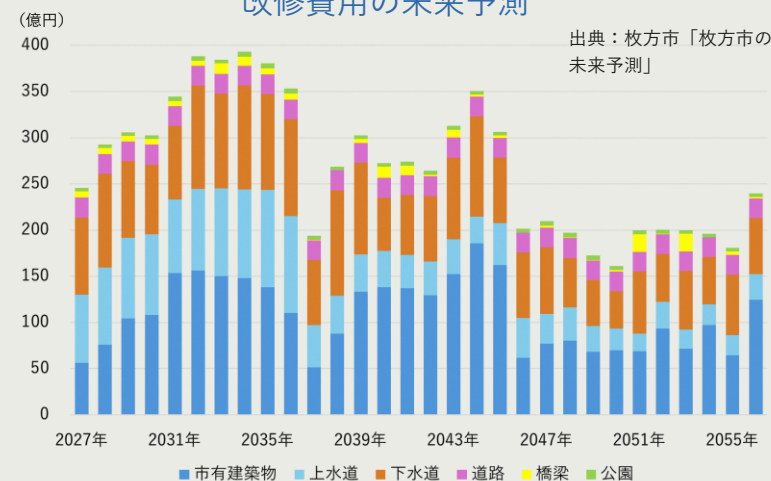
市民等の声

- 市民アンケートでは日常生活に必要な施設の確保を求める声が上がっている。住み続けたい枚方市の魅力として、交通アクセスや買い物の利便性、バランスの取れた住みやすさに関する意見がある。
- 事業者アンケートや市民ワークショップ*では、立地や交通利便性を上げる意見があり、交通環境を活かしたまちづくりが求められている。

参考データ

市有建築物・インフラ施設の更新・

改修費用の未来予測



施設・インフラごとの優先順位付けを行い、長寿命化、平準化、統廃合・集約化を含めた計画的なマネジメントが必要となる。

居住誘導区域*内の人口密度の未来予測

令和7年(2025年)

97.7人/ha

令和37年(2055年)

▶ 74.1人/ha

出典：枚方市「枚方市の未来予測」

居住誘導区域*内の人口密度は、今後30年間で約24人/ha低下する見込み。



健康増進のための環境づくりや、疾病の予防・早期発見の取り組みを進めるとともに、市民のウェルビーイング*の向上を図り、誰もが心身ともに健やかに、生きがいを持って暮らせるまちをめざします

誰もが生涯にわたっていきいきと日々を過ごすためには、身体的な健康だけでなく、心の健康を含めた総合的な健康づくりが必要です。そのため、行政による疾病予防などの継続的な取り組みとともに、市民一人ひとりが日常生活の中で主体的に健康増進に取り組める環境を整え、社会全体のウェルビーイング*を高めていきます。

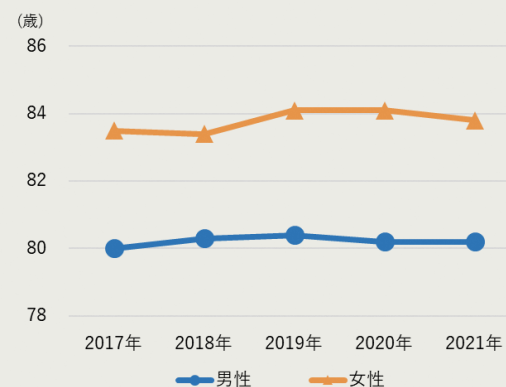
市民等の声

- 市民アンケートでは、運動施設や公園の充実を求める声や、地域交流や生きがいづくり、健康意識の向上を求める意見もある。
- 市民ワークショップ*では、枚方市の魅力として、健診（検診）制度の充実などの意見や心のケアセンターを求める声が上がっている。

参考データ

健康寿命*の推移

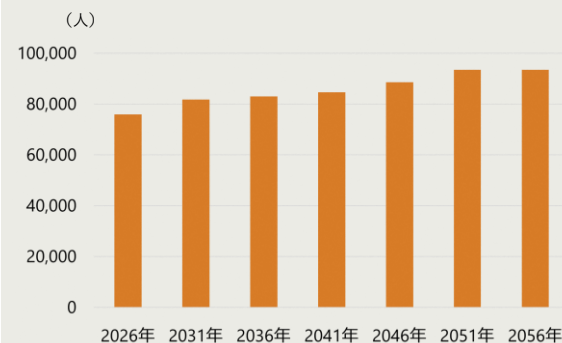
出典：枚方市「第3次健康増進枚方市計画」



高齢化が進む中、個人の幸福感だけでなく、社会や経済にも好影響を与える健康寿命*の延伸は喫緊の課題になっている。生活習慣病の予防や運動・食生活の改善、社会参加などを通じた健康づくりの重要性が高まっている。

生活習慣病該当者数の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」



生活習慣病該当者数は今後30年間で約23%増加する見込みであり、高齢化に伴う重症化・合併症リスクや医療費の増大が想定される。



地域の医療資源の効果的な活用と、健康危機事象*へ迅速に対応できる体制の充実により誰もが適切な医療を受けられるまちをめざします

本市の豊富な医療資源を生かしながら、救急医療体制のさらなる強化を図るとともに、将来的なデジタル技術の導入も見据えた環境づくりを引き続き進めます。あわせて、新型コロナウイルスの流行などの健康危機事象*の発生に備えた体制構築をより一層強固にし、平時・有事を問わない切れ目のない医療提供体制を充実させていくことで、誰もが必要な時に適切な医療にアクセスできるまちを実現します。

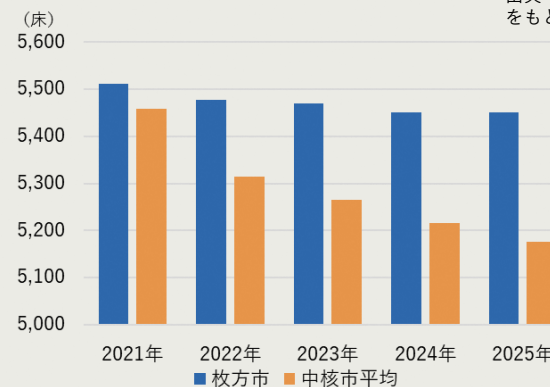
市民等の声

- 市民アンケートでは、医療環境に満足する声がある一方で、医療機関の連携等によるさらなる救急医療体制の充実や受診環境の改善を求める意見がある。
- 市民ワークショップ*では、夜間救急を含め、医療機関の受入体制が整っているとの意見がある。

参考データ

病床数

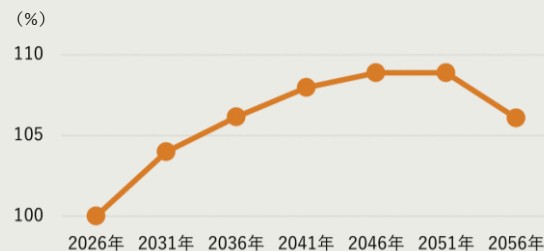
出典：中核市市長会「都市要覧」をもとに作成。



中核市平均を上回る充実した医療資源が市内に存在する。

医療需要の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」



医療需要は令和33年(2051年)頃まで増加し、その後低下する見込み。
令和38年(2056年)時点でも令和8年(2026年)を上回る見込み。



ユニバーサルデザイン*の視点と生活を支えるスマートテクノロジー*を取り入れたまちづくりにより、高齢者や障害者が安心して自分らしく暮らせるまちをめざします

高齢化の進行や福祉ニーズの多様化によりサービス需要が増加する一方で、地域のつながりの希薄化や、支え手となる人材の確保には課題があります。こうした課題に対応するため、人材の確保や育成に向けた取り組みを進めるとともに、誰にとっても優しいまちづくりの推進に向けて、将来の先端技術の活用を見据えた新たなサポート体制の構築と地域福祉の推進を図ります。これらにより、高齢者や障害者が社会参加でき、豊かで充実して暮らせるまちを目指します。

市民等の声

- 市民アンケートでは、外出や健康維持につながる場の充実や移動支援やバリアフリー*化の充実を求める声が上がっている。
- 事業者・NPO*アンケートでは年齢や障害の有無に関わらず、誰もが地域でつながりを持ち、健康づくりや社会参加ができるまちづくりが必要との意見がある。
- 市民ワークショップ*でも高齢化率や独居率の上昇が課題として提示され、孤独・孤立の進行が懸念されている。

参考データ

障害者数の推移

出典：枚方市「枚方市統計書」をもとに作成。

令和2年(2020年)

23,416 人

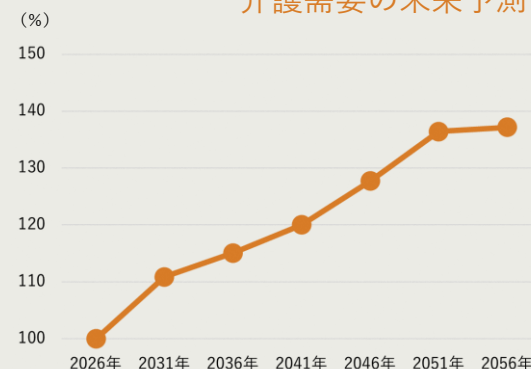
令和5年(2024年)

▶ 26,599 人

障害者数は年々増加しており、今後、高齢化に伴う支援ニーズの多様化や複雑化が想定される。

介護需要の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」



介護需要は継続的に増加し、令和38年(2056年)には令和8年(2026年)比で約37%増加する見込み。



人権尊重を根幹に据えた、多様な背景を持つ人々が共生できる
インクルーシブなまちづくり*を進めるとともに、平和な社会
の実現をめざします

一人ひとりの個性や価値観が尊重される社会においては、あらゆる偏見や差別を
なくし、お互いを思いやる心が欠かせません。すべての市民が安心して自分らし
く暮らせるよう、相互理解を深める取り組みを推進するとともに、男女共同参画
の取り組みを進め、日々の生活を営む上での揺るぎない基盤として、恒久平和の
実現を目指します。

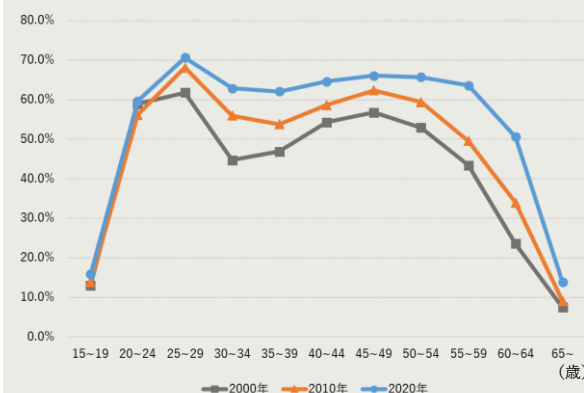
市民等の声

- 市民アンケートでは、誰もが尊重され安心して暮らせる平和なまち
を求める意見がある。
- 子どもアンケートでは、平和を大切にするまちを求める意見がある。

参考データ

女性年齢層別就業率の推移

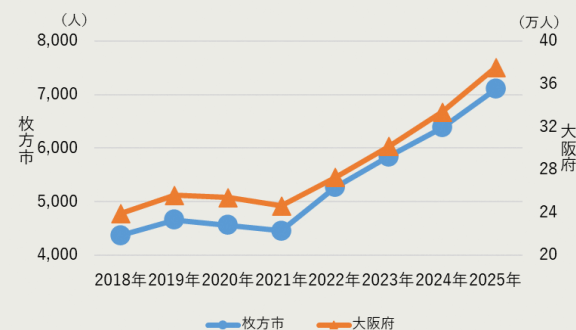
出典：枚方市「第4次枚方市男女共同参画計画」



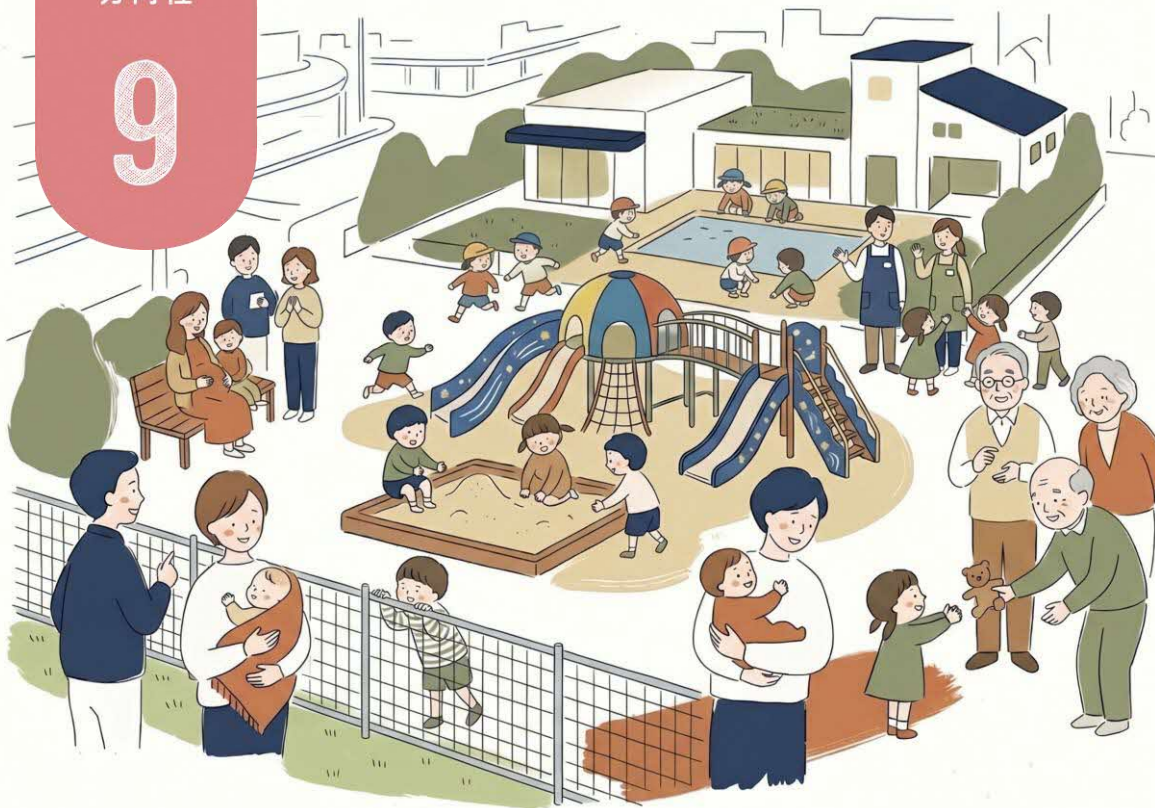
女性の年齢層別就
業率は、30歳代が
低くなる傾向では
あるものの、いわ
ゆるM字カーブの
谷は緩やかになっ
ている。

外国人市民の状況

出典：大阪府「推計人口（年報）」、枚方市「人
口の推移・動態・外国人人口」をもとに作成



令和3年(2021
年)以降、外国人
市民が増加して
おり、令和7年
(2025年)時点で
は約7,100人であ
る。



妊娠・出産・子育て期の切れ目のない支援と、子どもを取り巻く課題へ適切に対応できる環境整備により、子どもの人権、最善の利益が尊重され、社会全体で子育てを支えるまちをめざします

子どもや家庭の抱える課題が複雑化・多様化する中、それぞれに寄り添ったきめ細やかな対応が必要となります。そのため、ライフステージに応じた継続的なサポートを充実させるとともに、多様なニーズに的確に応える相談・支援体制を整えます。あわせて、子育て世帯が抱える不安や負担に寄り添い、地域や関係機関が一体となって子どもの健やかな育ちを後押しすることで、子どもたち一人ひとりの未来が守られ、安心して生み育てられるまちづくりを推進します。

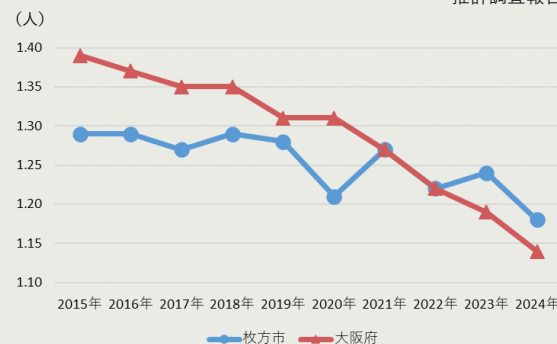
市民等の声

- 市民アンケートでは、子どもたちの暮らしやすさと親への支援の両方を求める声が上がっている。また、妊娠期からの支援に加え、遊び場、保育・相談支援を一体的に整え、地域全体で子どもの成長を支えるまちを望む意見がある。
- 事業者アンケートでは、子育て環境の充実を求める意見がある。
- 子どもアンケートでは、「遊び・移動・安全・自然・先端技術」がそろい、誰もが楽しく安心して暮らせる未来の枚方市が期待されている。

参考データ

合計特殊出生率の推移

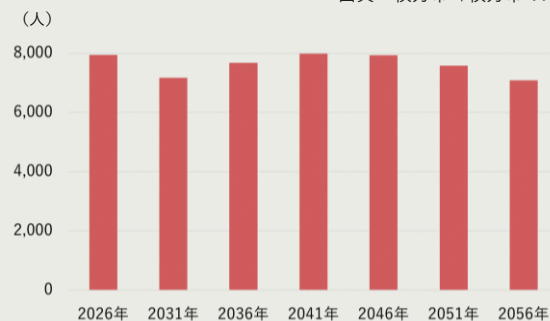
出典：枚方市「令和8年度枚方市人口推計調査報告書」をもとに作成



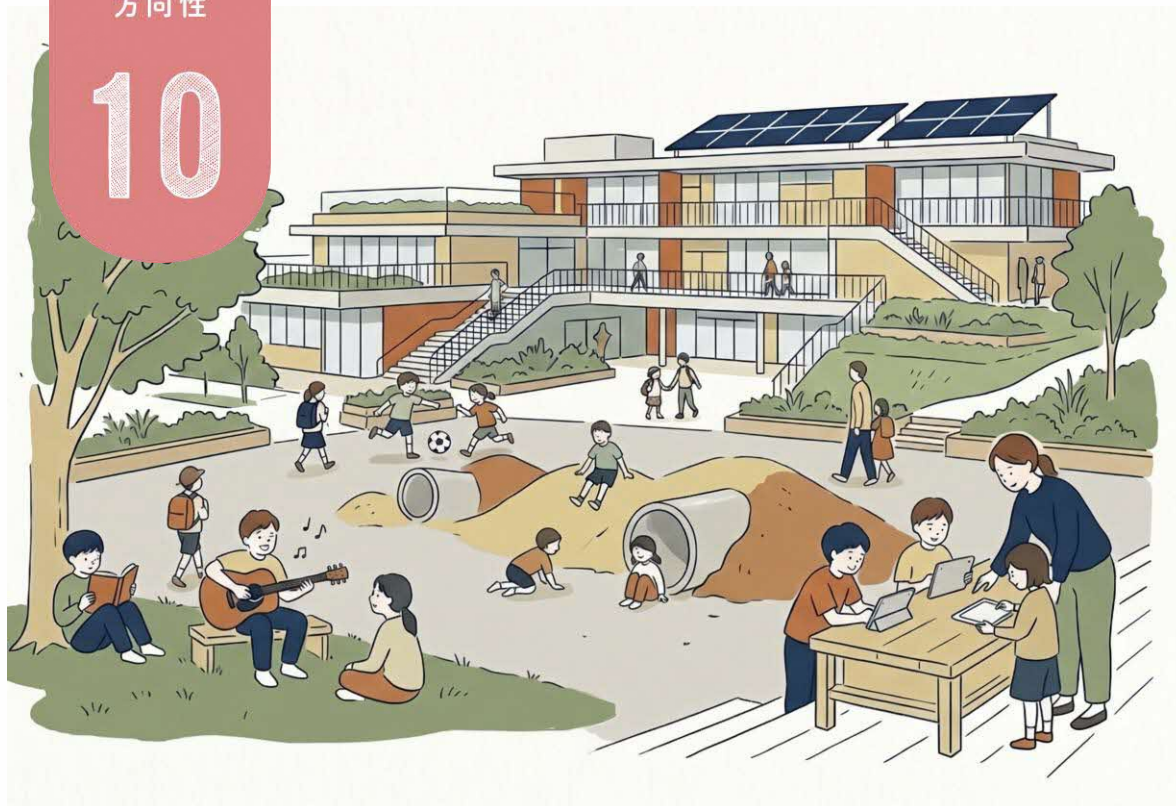
少子化の進行により子どもの出生数が減少する一方で、子育て家庭の孤立や経済的困難、子どもの不登校など、子どもや子育て家庭が抱える課題は複雑化・多様化している。

保育需要（人数）の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」をもとに作成



需要の地域差や年度ごとの変動を踏まえた定員や施設配置の最適化が必要と考えられる。



子どもたちの豊かな人間性と確かな学力を育み、未来への可能性を最大限に伸ばすことのできる教育環境の充実をめざします

子どもたちがこれからの社会を生きていく力を身につけられるよう、デジタル機器を効果的に活用した分かりやすい授業や、一人ひとりの特性に応じた個別最適な学びを推進します。あわせて、学校運営の最適化を図りながら、「夢に向かって挑戦したい」という子どもたちの主体的な意欲をしっかりと後押しし、次代を担う確かな学力と豊かな心を育む教育環境を充実させていきます。

市民等の声

- 市民アンケートでは、質の高い教育を求める声が上がっている。
- 事業者アンケートでは、学校、地域、企業等、様々な主体が連携し、地域全体で子どもを育む環境を作っていくことが求められている。
- 若者アンケートでは、当事者として一人ひとりの可能性を伸ばし、安心して挑戦し続けられる教育環境が望まれている。
- 子どもアンケートでは、将来の夢や目標に、自分の好きなことや得意なことを仕事にしたいという声が上がっている。
- 市民ワークショップ*でもデジタル技術を活用した教育が進んでいることやスクールカウンセラー*等の支援が強みとして上がっている。

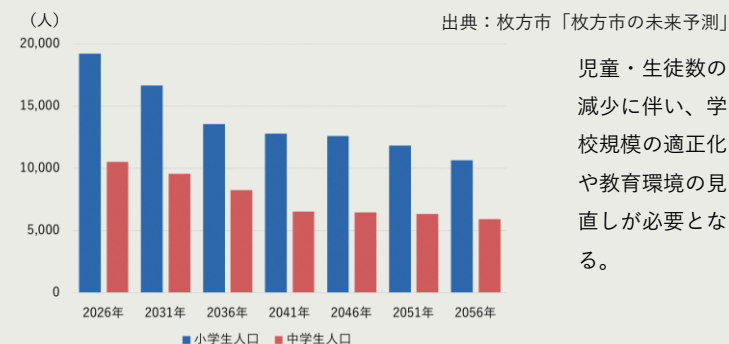
参考データ

国の自治体・教育DX*に関する方針



1人1台端末の活用や端末更新に向けた取り組み、生成AIの活用などが総合的に評価され、日本ICT教育アワードを4年連続受賞している。

小学生・中学生人口の未来予測





図書館や生涯学習市民センター、大学といった充実した学びの環境を生かし、誰もが生涯にわたって自分らしい「学び」を実現できるまちをめざします

社会の変化に伴い、新しい知識やスキルを身につけるリカレント教育（学び直し）や、世代を超えた交流の場へのニーズが高まっていることを受けて、本市に集積する多様な教育・文化拠点などの地域資源を最大限に活用し、一人ひとりのライフステージや知的好奇心に寄り添った学びを後押しします。これにより、誰もがいつまでも学ぶ喜びを持ち、心豊かに暮らせるまちづくりを推進します。

市民等の声

- 市民アンケート、市民ワークショップ*、NPO*アンケートから、年齢問わず学び続けられる機会を求める声が多いことが伺える。
- 事業者アンケートでは、子どもから高齢者までが共に学び、交流できる関係づくりを求める声がある。

参考データ

生涯学習市民センターの 年間施設利用者数の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」

令和8年(2026年)

60.5 万人

令和38年(2056年)

▶ **48.8** 万人

生涯学習市民センターの年間施設利用者数は令和38年（2056年）には令和8年（2026年）比で約19%の減少となり、地域施設の利用縮小が想定される。

図書貸出数の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」

令和8年(2026年)

441 万冊

令和38年(2056年)

▶ **356** 万冊

市立図書館の図書貸出数は今後30年間減少し続ける見込みであり、人口減少や情報媒体の多様化により貸出中心の利用が縮小することが見込まれる。



誰もが身近に文化芸術やスポーツに親しめる環境づくりを通して、感動と人々の交流があふれるまちをめざします

身近な場所で多様な文化・芸術に触れる機会や、思いきりスポーツを楽しめる環境の充実など、多角的な取り組みを推進します。誰もが文化芸術やスポーツを「する・みる・ささえる」喜びを感じながら、その活動が日常に深く根づくことで、豊かな感性が育まれ、世代を超えた交流や活気があふれるまちづくりを目指します。

市民等の声

- 市民アンケートでは、文化芸術やスポーツに触れる機会を求める声やイベント等の情報発信の強化を求める声が上がっている。
- 子どもアンケートでは、身近に友達と集まり、思いきり遊べる・身体を動かせる場が求められている。

参考データ

総合文化芸術センターの 来館者数の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」

令和8年(2026年)

26.0 万人

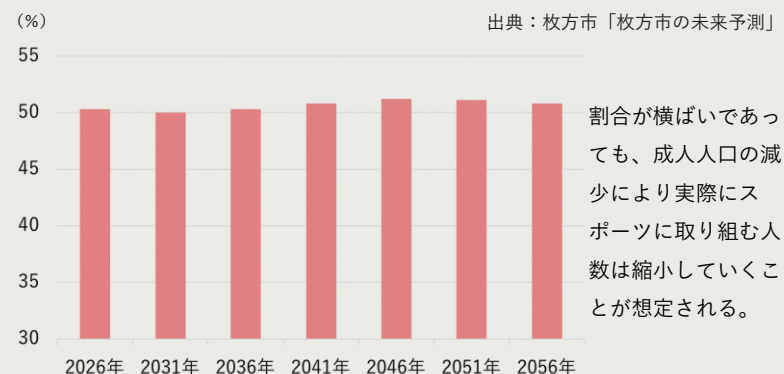
令和38年(2056年)

▶ 21.0 万人

人口減少に伴い、来館者数の減少が想定される。今後30年間で約19%の減少が見込まれる。

週1日以上スポーツに取り組む 成人の割合の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」





中心市街地の活性化を一層進め、創出された活力を市内各地域へ波及させることにより、まち全体の魅力向上をめざします

枚方市駅周辺の再整備を進め、新たな賑わいや交流の拠点を創出します。そこで生まれた活力を、市内各地の歴史や自然といった多様な地域資源と結びつけることで、市域全体へ波及させ、それぞれの地域が持つ個性を引き出しながら、市全体の魅力を高めるまちづくりを推進します。

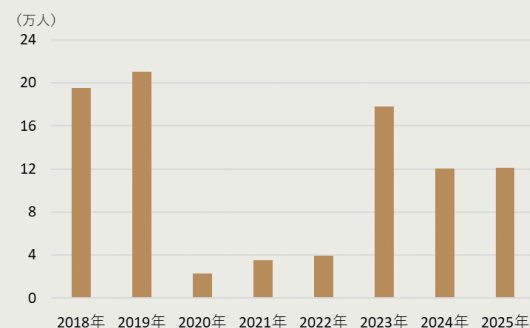
市民等の声

- 市民アンケートでは、地域のイベントで多世代が集まることで活気が生じるまちにしてほしいといった意見がある。また、都会さと田舎さの共存が枚方の強みとして上がっている。
- 事業者アンケートでは、中心市街地だけでなく、各地域の資源を活用した活性化策が求められている。

参考データ

岡東中央公園でのイベント来場者数

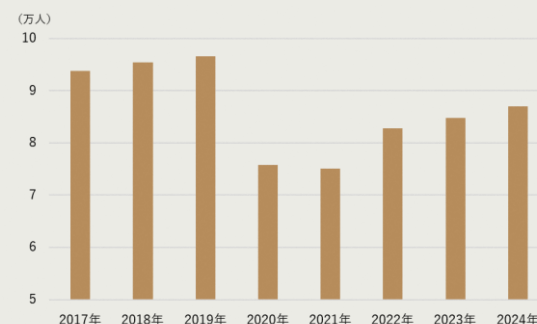
出典：枚方市「第2期実行計画」「第3期実行計画」をもとに作成。



令和7年(2025年)には約12万人となっている。
※令和2年(2020年)から令和4年(2022年)は新型コロナウイルス感染症の影響により「枚方まつり」は中止。

枚方市駅の鉄道乗降客数

出典：枚方市「枚方市統計書」をもとに作成。



令和6年(2024年)の枚方市駅の鉄道乗降客数は約8万7千人となっている。



本市ならではの地域資源の活用により、市民が愛着を持ち、活気と市内外の交流があふれるまちをめざします

悠久の歴史や豊かな文化、全国的な知名度を誇る遊園地など、本市の多彩な地域資源は、市民の日常に根差し、まちへの愛着形成に深くつながっています。こうした地域資源の魅力をさらに磨き上げ、活用していくことで、市内外の多様な交流と、まちへの一層の愛着を育み、訪れる人にも住む人にも親しまれる、活気と交流があふれるまちづくりを推進します。

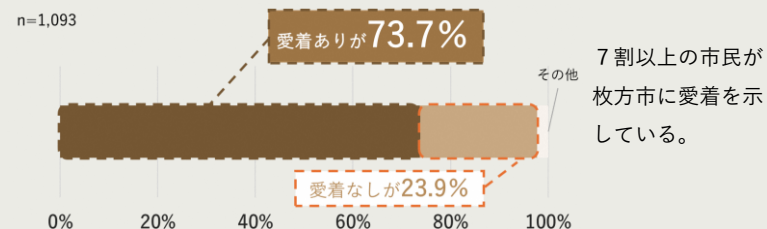
市民等の声

- 市民アンケートでは、貴重な地域資源を観光やイベントに最大限活かしてほしいという声が上がっている。
- 事業者アンケートでは、集客力や活気のなさが弱みとして上がっている。
- 市民ワークショップ*では、歴史や文化を十分に発信できていないという意見がある。

参考データ

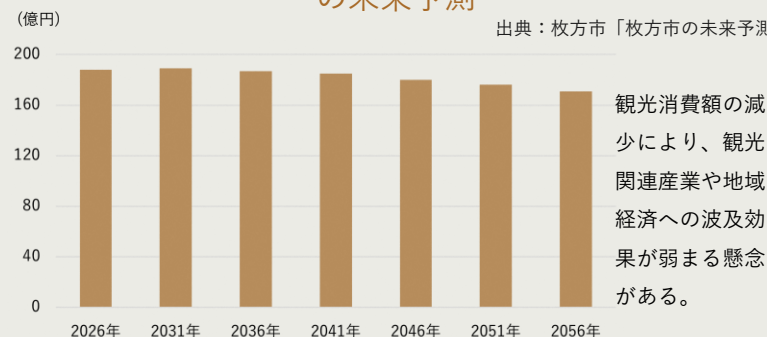
枚方市に愛着を持っている市民の割合

出典：枚方市「令和8年度枚方市市民アンケート」



観光消費額(国内旅行者+インバウンド*)の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」





学園都市の強みを生かし、市内大学の知的資源*と若者のエネルギーを取り入れたまちをめざします

市内には多くの大学が集積し、大学が持つ専門的な知見や学生たちのあふれるエネルギーをまちづくりへと生かす大きな素地があります。こうした本市特有の「学園都市」ならではの強みをさらに伸ばし、地域や産業と掛け合わせることで、新たな価値やまちの活力の創出につなげていきます。

市民等の声

- 市民アンケートでは、大学の知的資源*や学生の活力を本市のまちづくりや子どもたちの教育に生かしていくことを求める意見がある。
- 若者アンケートでは、留学生が多く住んでいるため、本市の歴史を知ってもらいイベントや交流イベントを作ると良いとの意見がある。
- 市民ワークショップ*では、大学が多い強みや企業との連携を活かし、本市の魅力と地域の活力向上を求める意見がある。

参考データ

市民千人あたりの大学生数

枚方市 **46.67人**

中核市平均 **29.80人**

出典：地方行政財政調査会「中核市の行政水準調査」をもとに作成

枚方市には、5つの大学があり、約1.8万人の学生が学んでいる。「学生のまち」としての側面も有している。

行政、大学、民間企業を巻き込んだ「枚方産学公連携プラットフォーム」の設立や、摂南大学が開発した「すももサイダー」を市の「ふるさと納税の返礼品」にするなど産学官連携での取り組みを進めている。

大学生相当年齢人口の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」をもとに作成

18歳以上23歳未満の人口

令和8年(2026年)
20,969人

令和38年(2056年)
▶ **10,838人**

学生数の減少により、地域活動やまちづくりへの若い担い手の参画が減るおそれがある。



地域産業の基盤強化と、起業・創業支援の充実により、既存産業と新たな産業が共に成長を遂げ、地域経済の好循環へとつながるまちをめざします

人手不足への対応や事業承継など既存企業への支援とあわせて、交通利便性やまちの規模といった本市の強みを生かし、新たなビジネスに挑戦しやすい土壌を整えます。多様な企業が成長し、活力を高めることで雇用の拡大や市民生活の豊かさをもたらし、それが地域内での消費やさらなる投資へと還元されていく、地域経済の好循環へとつながっていきます。

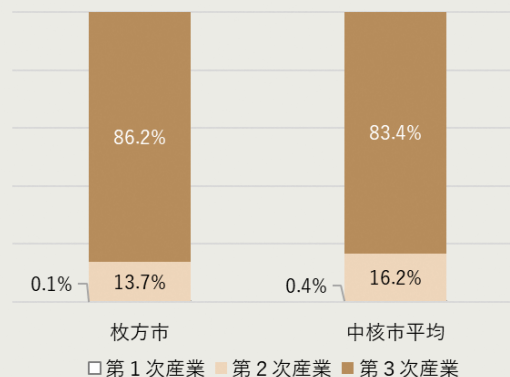
市民等の声

- 市民アンケートでは、企業誘致や市内中小企業の連携強化が必要といった声が上がっている。
- 事業者アンケートでは、通勤・来訪・物流の面で利便性が高く、人口規模や顧客基盤に関して、住民が多く、住宅地として安定していることが強みとして上がっている。
- 市民ワークショップ*でもシリコンバレーのような起業家が生まれるまちを理想として掲げる意見がある。

参考データ

産業ごとの事業所割合

出典：中核市市長会「都市要覧」をもとに作成。



第1次・第2次・第3次産業それぞれの産業の強みを生かすとともに、新たなビジネスが生まれやすい環境づくりが必要となる。

民営事業所数の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」

令和8年(2026年)

9,635 事業所

令和38年(2056年)

▶ 8,324 事業所

令和38年(2056年)には令和8年(2026年)比で約14%の減少と見込まれる。



地域産業の活性化とあわせて、多様なアプローチにより、若者から高齢者まで、ライフスタイルに合わせて、誰もがいきいきと働き続けられる環境の充実をめざします

働き方に対する価値観は多様化しています。企業の成長を支えるとともに、様々なニーズに応じた支援を通じて、一人ひとりが自らライフステージに合わせて働き方を選択できる環境づくりを推進することで、誰もがやりがいを持って働き続けられるまちづくりを進めます。

市民等の声

- 市民アンケートでは、市内で働ける環境、特に若い人が市内で働き続けられる環境を創出することを求める声が上がっている。
- 事業者アンケートでは、若い世代が働ける企業の誘致、地元企業への発注機会の確保、雇用の創出を求める意見がある。

参考データ

副業・兼業人材と 市内企業のマッチング支援

近年、多様な働き方が広がり、副業や兼業を希望する人が増加している。一方、市内の中小企業では、新しい事業などに取り組むための知識を持った人材を求めているものの、新たに社員として雇うことは容易ではない。枚方市立地域活性化支援センター「ひらっく」を通じて、この両者を結びつける支援を行うことで、企業の外部専門人材活用の後押しをしている。

労働力人口の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」

令和8年(2026年)

18.3 万人

令和38年(2056年)

▶ 11.9 万人

令和38年(2056年)には令和8年(2026年)比で約35%の減少となることが見込まれる。



東部地域の里山や都市近郊農業といった地域資源を活用し、経済的な好循環を生み出すことで、本市の豊かな自然環境を次世代へと継承していきます

農業や里山保全の担い手不足や農地の減少が進む中、本市の魅力である東部地域の美しい里山や市域の自然環境、多様な生態系、都市に隣接した農の営みなどを将来にわたり維持し、守っていく必要があります。新たな担い手の確保・育成を進めるとともに、地元農産物の消費拡大や付加価値の向上、豊かな自然や農地を活かした体験や交流機会の創出など、地域資源を生かしながら、そこから生まれる経済効果を環境の保全へと還元することで、この豊かな環境を未来へと継承していきます。

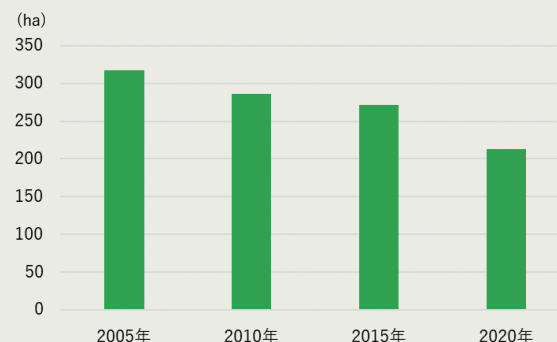
市民等の声

- 市民アンケートでは、農地の減少や農家の高齢化を懸念する意見や、農業の保全として、地元農産物の販売場所や直売所、道の駅、市民農園、農業体験、地産地消の充実を求める声が上がっている。
- 若者アンケートでは、住宅地や倉庫の開発により農地が失われていることへの懸念もあり、農業を続けやすい環境づくりが求められている。
- 市民アンケート・NPO＊アンケートでは、豊かな自然環境を継承していくことを求める声が上がっている。

参考データ

農地面積の推移

出典：農林水産省「農林業センサス」をもとに作成。



減少が続く農地を守り、都市の豊かな自然環境と農の営みを次世代へ確実に継承していく必要がある。

農業産出額の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」



令和7年(2025年)の約6.8億円から令和37年(2055年)には約1.7億円へ減少する見込み。



ごみ減量や省エネルギー、再生可能エネルギーの促進などの取り組みを通じて、資源循環や脱炭素化*を推進し、地球環境と調和する持続可能なまちをめざします

市民の環境意識が着実に高まる中、ごみの減量や省エネルギーなどの取り組みをさらに促進し、環境負荷の低減を図ります。一人ひとりのエコなライフスタイルへの転換を後押しすることで、気候変動への対応として、脱炭素*社会の実現に向け、地域全体で未来の環境を守り育てるまちづくりを推進します。

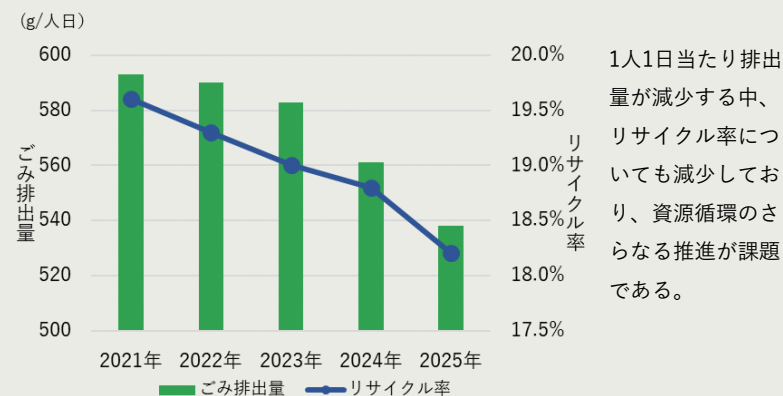
市民等の声

- 市民アンケートや市民ワークショップ*では、ごみ減量や資源循環の取り組みを強化する必要性を訴える声が上がっている。
- 事業者アンケートでは、市民の負担に頼りすぎない資源循環の仕組みが求められている。

参考データ

1人1日当たりのごみ排出量（家庭系）

出典：中核市市長会「都市要覧」をもとに作成。



1人1日当たり排出量が減少する中、リサイクル率についても減少しており、資源循環のさらなる推進が課題である。

市によるごみの資源化量の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」

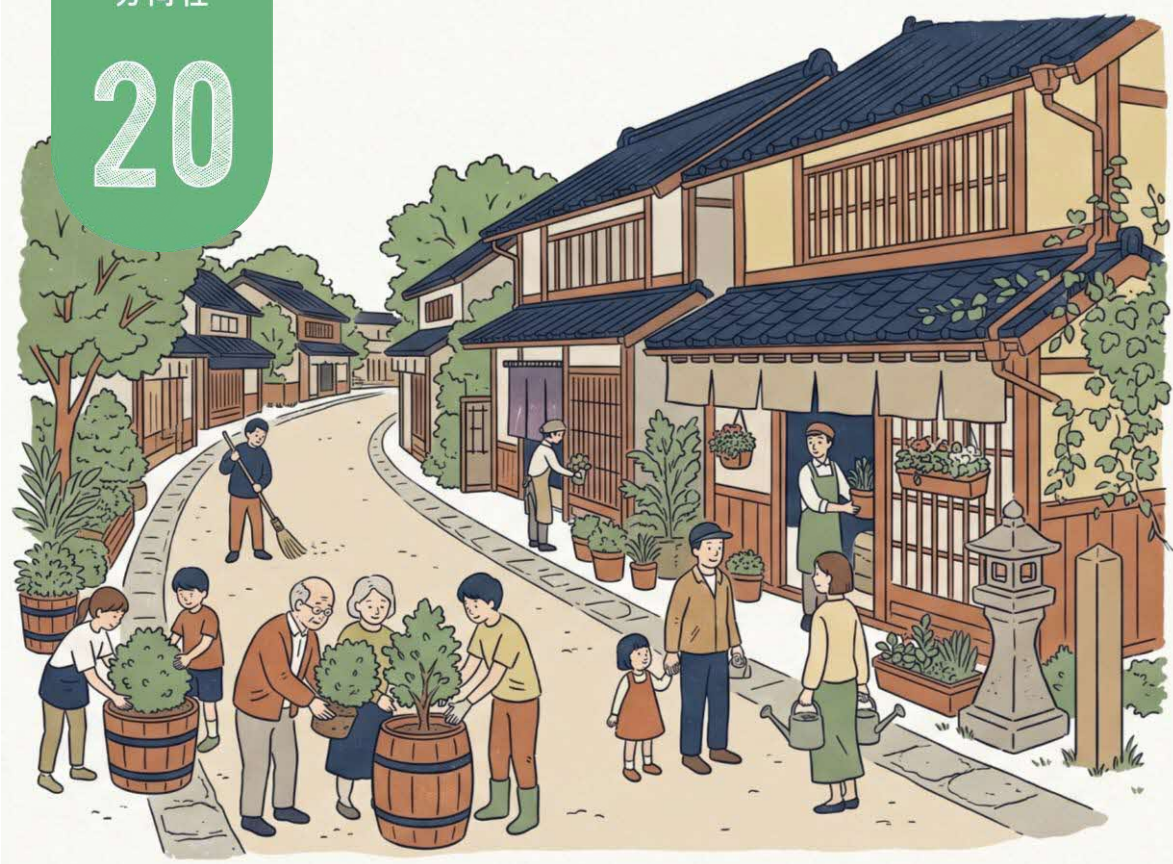
令和8年(2026年)

9,717 t

令和38年(2056年)

▶ 7,841 t

人口減少に伴い資源化量は令和38年(2056年)には令和8年(2026年)比で約19%減少することが想定される。



地域での美化活動や、景観保全に取り組むとともに、街中の緑化活動を進め、美しいまち並みの形成とみどり豊かなまちをめざします

本市の美しい景観やきれいなまち並み、街中の身近な緑を、共通の財産として地域全体で守り育てていく必要があります。市民や事業者など、多彩な主体が連携しながら、日々の暮らしに潤いを与え、誰もが心地よく過ごせる良好な環境づくりを進めます。

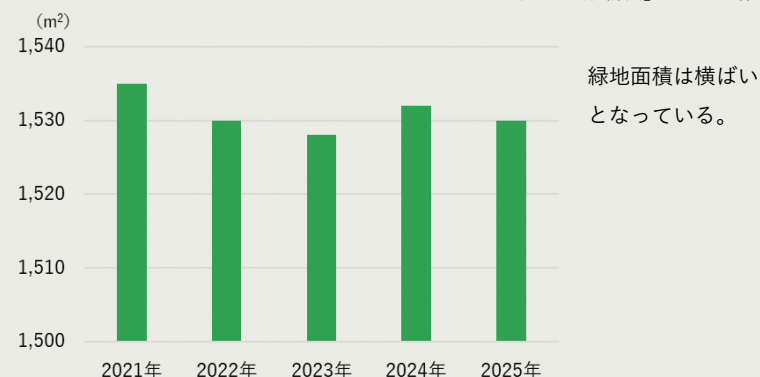
市民等の声

- 市民アンケートでは、景観に対する意見や積極的に緑の空間を取り入れることなど、美しい環境を求める声が上がっている。
- 市民ワークショップ*では、枚方の景観が本市の魅力として認知されており、今後、その強みを守り・発展させることが求められている。

参考データ

緑地面積の推移

出典：枚方市「第2期実行計画」
「第3期実行計画」をもとに作成。



森林面積の未来予測

出典：枚方市「枚方市の未来予測」

令和7年(2025年)

701.5 ha

令和37年(2055年)

▶ 646.3 ha

令和37年(2055年)
には平成17年(2005
年)比で約13%減少
する見込み。

基本構想

めざすまちの姿

まちづくりの基本目標

まちづくりを進める基盤づくり

総合計画の実現主体

基本構想

第5次枚方市総合計画では、人口減少や少子高齢化が進む中であっても、より暮らしやすいまちづくりを進め、さらなるまちの魅力向上を図る、「人口減少社会においても発展し続けるまちづくり」を推進すること、そして、市民が住み続けたい、市外の人を訪れたい、関わりたい、住んでみたいと思える魅力あるまちであり続けるために「世代にかかわらず、ともに支えあいながら、一人ひとりが輝くまち」となることをめざして、「めざすまちの姿」を「持続的に発展し、一人ひとりが輝くまち 枚方」と定め、その実現に向けた長期的な視点からの目標として、5つの「基本目標」を設定しました。

現在も、人口減少や少子高齢化は、留まることなく進行し続けています。また、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う社会構造の変容や、デジタル技術の急速な進展による技術革新、さらにはLGBTQ+*や多文化共生*などの多様性の尊重の概念に加え、ウェルビーイング*をはじめとする時代に即した概念の定着など、枚方市を取り巻く情勢は大きく変化し、今後もその変化が続いていくことが見込まれます。こうした中においても、持続的にまちを発展させて、枚方市に関わる全ての人、その誰もがさらに輝けるまちを実現していくために、「めざすまちの姿」とそれを実現する5つの「基本目標」を引き継ぎ、改めて、掲げました。

この「めざすまちの姿」と5つの「基本目標」をまちづくりの指針とするとともに「まちづくりを進める基盤づくり」を推進し、枚方市をさらに前へ、未来へ、進めていきます。

めざすまちの姿

人口減少の中においても時代にあわせて発展し続けるまち、
市民が住み続けたい、市外の人を訪れたい、関わりたい、住んでみたい
と思える魅力あるまちを目指します

持続的に発展し、一人ひとりが輝くまち 枚方

5つの「基本目標」

「めざすまちの姿」の実現に向けて長期的な視点に立ち、5つの基本目標を定めます

- 安全で、利便性の高いまち
- 健やかに、生きがいを持って暮らせるまち
- 一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち
- 地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち
- 自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち



まちづくりの基本目標

「めざすまちの姿」を実現するため、長期的な視点でまちづくりを進めていくために、まちづくりの方向性を分野ごとに分類し、5つの基本目標ごとにまとめました。

安全で、利便性の高いまち

- 市民の防災意識をさらに高めるとともに、都市基盤の整備や的確な情報発信を進め、地域や事業者などとの連携により、災害に強く安全に暮らせるまちをめざします
- 組織化、巧妙化する犯罪にも対応できるよう、事業者や関係機関、地域が連携し、社会全体で犯罪のない安心なまちをめざします
- 道路交通網や歩行空間の計画的な整備を進めるとともに、時代に即した新しい交通環境を整えることで、誰もが安全で快適に移動できるまちをめざします
- 公共交通ネットワークを生かした都市機能の集約化を図りながら、周辺環境とも調和した、将来にわたって賑わいと安らぎが共存する誰もが便利で暮らしやすいまちをめざします

健やかに、生きがいを持って暮らせるまち

- 健康増進のための環境づくりや、疾病の予防・早期発見の取り組みを進めるとともに、市民のウェルビーイング*の向上を図り、誰もが心身ともに健やかに、生きがいを持って暮らせるまちをめざします
- 地域の医療資源の効果的な活用と、健康危機事象*へ迅速に対応できる体制の充実により誰もが適切な医療を受けられるまちをめざします
- ユニバーサルデザイン*の視点と生活を支えるスマートテクノロジーを取り入れたまちづくりにより、高齢者や障害者が安心して自分らしく暮らせるまちをめざします
- 人権尊重を根幹に据えた、多様な背景を持つ人々が共生できるインクルーシブなまちづくり*を進めるとともに、平和な社会の実現をめざします

一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち

- 妊娠・出産・子育て期の切れ目のない支援と、子どもを取り巻く課題へ適切に対応できる環境整備により、子どもの人権、最善の利益が尊重され、社会全体で子育てを支えるまちをめざします
- 子どもたちの豊かな人間性と確かな学力を育み、未来への可能性を最大限に伸ばすことのできる教育環境の充実をめざします
- 図書館や生涯学習市民センター、大学といった充実した学びの環境を生かし、誰もが生涯にわたって自分らしい「学び」を実現できるまちをめざします
- 誰もが身近に文化芸術やスポーツに親しめる環境づくりを通して、感動と人々の交流があふれるまちをめざします

地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち

- 中心市街地の活性化を一層進め、創出された活力を市内各地域へ波及させることにより、まち全体の魅力向上をめざします
- 本市ならではの地域資源の活用により、市民が愛着を持ち、活気と市内外の交流があふれるまちをめざします
- 学園都市の強みを生かし、市内大学の知的資源*と若者のエネルギーを取り入れたまちをめざします
- 地域産業の基盤強化と、起業・創業支援の充実により、既存産業と新たな産業が共に成長を遂げ、地域経済の好循環へとつながるまちをめざします
- 地域産業の活性化とあわせて、多様なアプローチにより、若者から高齢者まで、ライフスタイルに合わせて、誰もがいきいきと働き続けられる環境の充実をめざします

自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち

- 東部地域の里山や都市近郊農業といった地域資源を活用し、経済的な好循環を生み出すことで、本市の豊かな自然環境を次世代へと継承していきます
- ごみ減量や省エネルギー、再生可能エネルギーの促進などの取り組みを通じて、資源循環や脱炭素化*を推進し、地球環境と調和する持続可能なまちをめざします
- 地域での美化活動や、景観保全に取り組むとともに、街中の緑化活動を進め、美しいまち並みの形成とみどり豊かなまちをめざします

まちづくりを進める基盤づくり

様々な主体がまちづくりを進めるための共通の基盤となる考えや取り組みを示しています。

人権の尊重

年齢、性別、国籍、障害の有無などに関わらず、多様な価値観をお互いに認め合い、誰もが等しく尊重されること。この「一人ひとりの人権の尊重」を、すべてのまちづくりの基本的な土台とします。

多様な主体の参画によるまちづくりの推進

まちの課題や未来を「ジブンゴト」として捉え、誰もがまちづくりに積極的に関わる意識の醸成を図ります。あわせて、主体間が有機的に結びつき、相乗効果を生み出せるよう関係性の強化や環境整備を図り、多様な主体がそれぞれの強みを出し合い、連携・協力したまちづくりを推進します。

持続可能な行財政運営

人口減少や社会の担い手不足が進む中においても、時代や社会の変化に的確に対応するため、公共インフラの更新や公共施設マネジメントによる施設総量の最適化、行財政改革の推進や広域的な連携による社会課題の解決などを進めるとともに、スマートシティ*やAI・デジタル技術を活用したDX*といった新しい技術・概念を効果的に取り入れ、持続可能で柔軟な行政運営を図ります。



総合計画の実現主体

まちづくりの理念を共有し、共に未来のまちを創る主体を示しています。

人口減少や少子高齢化をはじめ、枚方市を取り巻く社会情勢は大きく変化し続けています。それに伴い、地域課題や市民・事業者のニーズ等が多様化・複雑化していく中、これからのまちづくりは、担い手そのものを、一層多様化していく必要があります。

多様な主体がそれぞれの強みや特性を生かしながら、互いに連携・協働して地域の課題解決や魅力向上を進め、みんなでまちを創りあげていくことで、どのような変化の中においても、枚方市を未来へつなげていくことができます。

市民や事業者、市民団体、行政にとどまらず、通勤・通学者、本市に関わる市外の方々など、協力の輪を広げ、総合計画のもと、「めざすまちの姿」の実現に向けて「オール枚方+（プラス）」でまちづくりを強力に推進していきます。



計画の構成と期間

計画の構成と期間

計画の構成

総合計画は、「基本構想」「基本計画」の2階層で構成します。

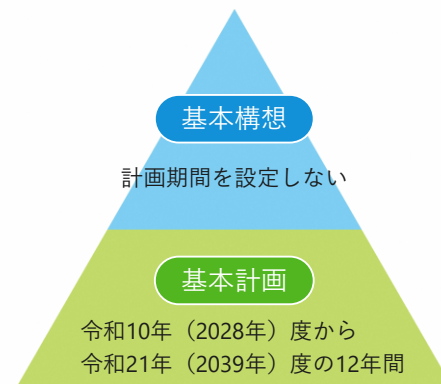
▶ 基本構想

期間を設定せず、長期的な視点に立って、本市のめざすまちの姿のほか、それを実現するためのまちづくりの基本目標などを定めます。

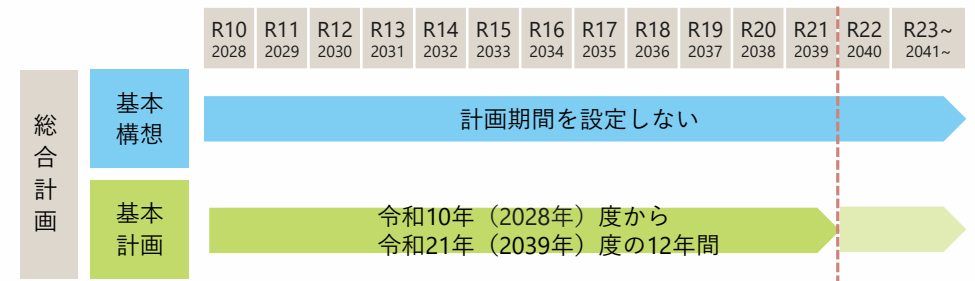
▶ 基本計画

基本構想の具体化を図るために、令和10年（2028年）度から令和21年（2039年）度までの12年間に於いて推進する施策を示すとともに、広く各部門における取り組みの方向や主な取り組みなどを定めます。
また、社会状況等の変化に柔軟に対応するため、取り組みの評価を進める中で、必要に応じて改定を行います。

次期枚方市総合計画の構成



計画の期間



用語集

ページ数	該当単語	意味
5, 11, 15, 22	N P O	営利を目的とせず、福祉、環境、まちづくりなど、社会や地域の課題解決に向けて活動する法人のこと。
5	ハザードマップ	地震、洪水、土砂災害などの自然災害が発生した際に、被害が想定される区域や危険度、避難場所・避難経路などを地図上にわかりやすく示したもの。
6	特殊詐欺	電話やインターネットなどを通じて、親族や警察官、市役所職員などを装い、相手を信用させて現金などをだまし取ったり、ＡＴＭを操作させお金を振り込ませたりする詐欺手法のこと。
6	闇バイト	ＳＮＳや掲示板などで、「高額収入」「即日即金」といった甘い言葉で募集し、応募者を犯罪組織の実行役として強盗や特殊詐欺などの犯罪行為に加担させる危険な求人のこと。
6～24	市民ワークショップ	参加者（市民）が主体的に意見を出し合い、対話を通じて課題解決やアイデア出しを行う体験型の会議や集まりのこと。本資料では、枚方市が令和８年６月～８月に実施した次期総合計画の策定に向けたまちづくりワークショップを指します。
8	居住誘導区域	人口減少が進む中でも、生活に必要なサービスや公共交通を維持できるよう、住民の居住を緩やかに誘導し、人口密度を保つことを目指す区域のこと。
9, 26, 28	ウェルビーイング	身体的、精神的、社会的に良好で、満たされている状態のこと。一人ひとりが自分らしく実感できる持続的な幸福や質の高い暮らしのあり方を表します。
9	健康寿命	介護や人の助けを借りず、健康上の問題によって日常生活が制限されることなく、自立して生活できる期間のこと。
10, 28	健康危機事象	感染症の流行や食中毒、自然災害などにより、人々の生命や健康に重大な被害が生じる、または生じるおそれがある事象のこと。
11, 28	ユニバーサルデザイン	年齢や障害の有無に関わらず、最初からすべての人が利用しやすいように建物・製品・環境・サービス等を設計すること。
11	スマートテクノロジー	ＡＩ（人工知能）やＩｏＴ（家電や自動車などをインターネットにつなぐ技術）などの最先端技術を活用し、生活の利便性や業務の効率的、地域課題の解決を図る技術全般のこと。

用語集

ページ数	該当単語	意味
11	バリアフリー	高齢者や障害のある人などが生活する上で障害となる物理的な段差や利用しにくい制度、意識上の障壁（バリア）を取り除くこと。
12, 28	インクルーシブなまちづくり	「包摂的な」という意味。障害の有無や国籍、性別などの多様な背景を持つすべての人を排除せず、共に生きる社会のあり方。
14	スクールカウンセラー	学校で児童・生徒や保護者などの悩みや相談に応じ、心のケアや問題解決に向けた支援を行う専門家（公認心理師や臨床心理士など）のこと。面談だけでなく、教職員への助言や学校全体のメンタルヘルス支援なども担います。
14, 29	D X（デジタルトランスフォーメーション） / 教育D X	デジタル技術を活用して、人々の生活や社会、ビジネスの仕組み、行政や教育のあり方をより良い方向へ変革すること。
18	インバウンド	外国から日本へ訪れる旅行者（訪日外国人客）のこと。またその旅行者による消費活動を含む。
19, 28	知的資源	大学や研究機関、企業、地域などが長年培ってきた専門的な知識、研究成果、技術、歴史・文化的なノウハウ、およびそれらを有する人材（学生や研究者など）のこと。地域の課題解決や新たな産業振興を図るための重要な財産となります。
23, 28	脱炭素 / 脱炭素化	地球温暖化を防ぐため、二酸化炭素（C O ₂ ）などの温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすること。
26	L G B T Q +	性的指向（どのような性を好きになるか）や性自認（自分の性をどう認識しているか）に関する多様な性のあり方を表す言葉の総称。「+（プラス）」は、言葉で分類しきれない多様な性のあり方があることを示す。
26	多文化共生	国籍や文化、言語などの違いを互いに認め合い、尊重しながら、誰もが地域社会の対等な一員として共に暮らしていくこと。
29	スマートシティ	I C TやA Iなどの先端技術などの新しい技術を活用して、都市課題（交通、環境・エネルギー、防災、医療など）を解決し、人々の暮らしの質を高め続けるまちのこと。